

育児休業に関する体験記 3

30代 62日間取得

①家事・育児について

1. 育児休業前に、夫婦で家事・育児の分担をどのように話し合い、行ったか

家事については明確な役割分担は設けず、お互いに協力し合いながら取り組んだ。日中は妻が、夜間は私が中心となって育児を行うようにし、連続した睡眠時間ができるだけ確保できるように対応した。授乳に関しても母乳・ミルク混合とし、どちらでも対応できるように取り組んだ。

2. 育児休業後の家事・育児の参画の状況について

勤務日の帰宅後は入浴と子守を担当。休日は育休期間中と同様、家事・育児共に明確な役割分担は設けずに協力しながら取り組んでいる。

(妻 記載欄)休業取得者の家事・育児の参画の状況について

何もかもが初めての経験で不安な気持ちだったが、夫と相談しながら育児に取り組むことができたので非常に助かった。

②仕事について

1. 休業取得前、仕事の引継ぎはどのように行ったか

口頭+PCに重要事項を記録し引き継いだ。出産直後からの育児休業取得ではなく、予定日から約1ヶ月後のキリのよいタイミングでの取得を前もって上司へ相談・申請していた。その為、休業前は引継ぎが必要となる新たなクライアントは担当せず、すでに担当していたクライアントは対応を完了させたうえで休業に臨むことができた。

2. 評価・反省

当職場では男性の育休取得の前例もあり、相談がしやすい環境だった。その為、早い段階で上司に相談することができ、スムーズに育休に臨むことができた。

③自由記述

私は出産後約1ヶ月後から2ヶ月間の育児休業を取得しました。

取得しようと思った動機は、初産であり経験のない育児に対して不安が大きかったこと、また妻への負担を少しでも和らげたいと思ったからでした。また当職場では以前にも男性の育休取得者がおり、前例があったことと、その方々からお話を聞いたことも取得の後押しとなりました。

育休申請にあたっては、長期間職場から離れることへの不安と申し訳なさがありましたが、上司や同僚の皆様からは温かい言葉と、取得前後の業務の配慮までしていただき安心して育休・職場復帰することができました。大変感謝しています。

正直な話、私は出産・育児に対して当事者意識を持てずにいました。元々子どもに対して興味が少なく、また自分の時間やお金が奪われるだけではという考えが根底にあったのでしょうか。今振り返ると、これから父親になる身として、そんな自分を変えたいと思ったことも、育休取得に至った動機の一つだったのかもしれない。

実際に、出産後1ヶ月は勤務を続けながら育児に携わったのですが、どこかまだ他人事のような感覚が抜けきれませんでした。ですが育休期間中、1日24時間をこどもだけに集中できたことで徐々に育児を“自分事”として認識するようになっていました。そのお陰で職場復帰した今も、主体的に育児に取り組むことができています。きっとこの経験がなければ、父としての自覚・責任を持てなかった気がします。

そして育休は子どもに向き合えただけでなく、妻に向き合うことができたのも私の中では大きなメリットでした。

長期間を妻と共に過ごすことで必然的にコミュニケーションも増え、普段できなかった内容や将来についても話し合う事ができ、改めて夫婦・家族としてのあり方を振り返ることができました。

育休期間は2ヶ月と決して長くはありませんでしたが、父として、そして夫として自覚を持てるようになった、私の中で大切なきっかけとなりました。私のように育児に対して当事者意識を持ってない方は少ないかもしれませんが、でも、もしそんな方がいらっしゃるなら、ぜひ育休の取得をおすすめします。そうでなくても、育児の大変さと喜びを夫婦で共有できる貴重な機会かと思います。